

第02講 『文。』に「文役」、「語句節」と「品詞」

本講では、

- ① 「基本3『文。』」の理解と「文役」の認識（「動詞」の観点からは「基本3種」）
 - ② 「構成4品詞」の確実な認識と深い理解
- を目指します（ここが、我慢の「基本3『文。』」の認識です、馬鹿にしないでください！）

I 『文。』の種類

『文。』の理解としては、まずは「基本的な3『文。』」の完全理解からはじめましょう

「基本3『文。』」

- ① 「何(主役)」が、「どうする」。(「主役」の「自分だけの動作」をあらわします)
- ②A 「何(主役)」が、「何」だ。(「主役」の「職業・地位・内容」をあらわします)
- ②B 「何(主役)」が、「どんな」だ。(「主役」の「性質・状態」をあらわします)
- ② 「何(主役)」が、「何」を、「どうする」。(「主役」の「他者を巻き込む動作」をあらわします)

『文。』には、基本的に「3『文。』」しかありませんといいながら、4種ありますが、②のA②のBの違い、すなわち、Aの「名詞による言い換え」と、Bの「形容詞による状態説明」の違いは読解上大変重要で、本来的には、「基本4『文。』」というべきでしょう

『文。』というものは、「動作」をあらわす「単語」すなわち「動詞」という「品詞」に支配されていて、それにより、「語順」があらかじめ慣習的に決まっていますので、「作文者」は、その「ルール」に従って、「単語」を並べていくのです

『文。』は「(おもちゃの)回送貨物列車」のようなイメージで考えてください
作『文。』は、「動詞」を司令塔として慣習的に決まっている規則に従って並んでいる「空の貨物車」があるところに、作文者が伝えたい内容に応じて、必要な「単語(句節)」を的確に据えていくようなものです

ここから、厳格な「ルール」「規則性」をもった『文。』の「構造」をみていきます
細かい「ルール」はいったん措いて、「根本的なルール」を認識・理解し覚えないと、今後の積み上げが不能となり、あとが崩れ去るので注意してください

では、『文。』をつくっている「空の貨物車両」と「語順」についてみていきましょう

『文。』の中心・主体は「主役」で、脇に「補役」「目的役」

『文。』をつくっている「空の貨物車両」のうち、≪「何」が≫にあたる『文。』の中心・主体の部分「主役」と本書ではいいます（≪主語≫では狭小ですね）

それ以外以降の部分には、「主役」を補佐する「補役」と主役の相手役の「目的役」がありますね（≪補語≫ ≪目的語≫では狭小ですね）

『文。』をつくっているこれらの「空の貨物車両」には、それぞれ名称があります

| ① | 主 部 | 述 部 |
|-------|-------|---------|
| | 「何」が、 | 「どうする」。 |
| 貨車の名称 | 主 役 | 自 動 詞 |

例文 「タロー」が、「走る」。

| ②A | 主 部 | 述 部 |
|-------|-------|-----------------------|
| | 「何」が、 | 「何」だ。 |
| 貨車の名称 | 主 役 | 補 役（「だ」「です」が自動詞に相当する） |

例文 「タロー」が、「キャプテン」だ。

| ②B | 主 部 | 述 部 |
|-------|-------|-----------------------|
| | 「何」が、 | 「どんな」だ。 |
| 貨車の名称 | 主 役 | 補 役（「だ」「です」が自動詞に相当する） |

例文 「タロー」が、「おだやか」だ。「タロー」は、「やさしい」です。

| ③ | 主 部 | 述 部 | |
|-------|-------|-------|---------|
| | 「何」が、 | 「何」を、 | 「どうする」。 |
| 貨車の名称 | 主 役 | 目的役 | 他 動 詞 |

例文 「タロー」が、「ボール」を「蹴る」。

『文。』の「空の貨物車両」の名称としては、「主役」「自動詞」「他動詞」「目的役」「補役」の5種しかありません

これらは、『文。』の中での「役割」を示しています

本書では、これらの総称を、『文。』中の「役割」ということで「文役」と呼びます

≪「貨車」＝「文役」≫です

「補役」とは、≪「主役」を「補って」説明する「役割」≫という意味です

「目的役」とは、≪「動作」の「目的・対象物」を示す「役割」≫を意味します

| 系 称 | 『文。』中の役割の呼称 |
|--------------------------------------|-------------|
| 文 役 『文。』中での「役割」 『文。』中の「空の貨物車両」 | 主 役 |
| | 自 動 詞 |
| | 他 動 詞 |
| | 目 的 語 |
| | 補 役 |

「文役」は、『文。』中での「役割」であることをしっかり認識・理解してください

II 「文役」に「語句節」と「品詞」

『文。』の中で、規則的に並んでいる「空貨車」すなわち「文役」には、配置できる「語句節」「品詞」が本来的に決まっています（以下の表を参照してください）

「語句節」は、その「性質」に応じて、「名詞」「形容詞」「自動詞」「他動詞」などと、いくつかの種類に分類されています（この分類のグループ名の総称が「品詞」です）
（「動詞」と一括せずに、常に「自動詞」と「他動詞」に「厳格区別」しましょう）

『文。』の「構造」に関する場合、「名詞」「形容詞」「自動詞」「他動詞」の4品詞を考えれば十分です（この「構成4品詞」略して「名形自他」をしっかり認識してください）

≪「語句節」の「性質」に着目した分類の「総称」≫を「品詞」といいます
≪『文。』中の「役割」≫が「文役」です
「語句節の性質による分類＝品詞」「文中の役割＝文役」を確実に理解してください

次は、どの「品詞」がどんな「文役」になれるかの理解です

「名詞」 → 「主役」・「目的役」・「補役」になれる
「形容詞」 → 「補役」になれる ……というだけのことです

では、「文役」と「品詞」の関係を確認します

| ① | 主 部 | 述 部 |
|----|-------|---------|
| | 「何」が、 | 「どうする」。 |
| 文役 | 主 役 | 自動詞 |
| 品詞 | 名 詞 | 自動詞 |

| ②A | 主 部 | 述 部 |
|----|-------|-------|
| | 「何」が、 | 「何」だ。 |
| 文役 | 主 役 | 補 役 |
| 品詞 | 名 詞 | 名 詞 |

| ②B | 主 部 | 述 部 |
|----|-------|---------|
| | 「何」が、 | 「どんな」だ。 |
| 文役 | 主 役 | 補 役 |
| 品詞 | 名 詞 | 形 容 詞 |

| ③ | 主 部 | 述 部 | |
|----|-------|-------|---------|
| | 「何」が、 | 「何」を、 | 「どうする」。 |
| 文役 | 主 役 | 目的役 | 他動詞 |
| 品詞 | 名 詞 | 名 詞 | 他動詞 |

「品詞」は、「語句節」の「性質」であることをしっかり認識・理解してください

「補役」には、A「何だ」という「名詞補役」と、B「どんなだ」という「形容詞補役」の2種類あることに注意してください

| | |
|--------------|----------------------|
| 名詞補役（何だ）A | 「主役」の「職業・地位・内容」をあらわす |
| 形容詞補役（どんなだ）B | 「主役」の「状態・性質」をあらわす |

Aは「名補」Bは「形補」と、本書では略称します

①～③のような『文。』の「形態（型）」は、「作文者」が「どんなことをどう伝えたい」のかということから選択された「自動詞」もしくは「他動詞」によって支配されていることを確実に認識してください（ある意味、「動詞」は影の支配者なんですね）

「文役」と「品詞」のまとめ

| 文 役 | 品 詞 |
|-----------------|---------|
| 主 役 | 名 詞 |
| 目的役 | 名 詞 |
| 補 役 | 名 詞・形容詞 |
| 自動詞（「述語動詞」ともいう） | 自動詞 |
| 他動詞（「述語動詞」ともいう） | 他動詞 |

「構成要素」と「構造把握」

「文役」は『文。』中の「役割」の総称ですが、『文。』をどうつくっているのかという「組成」の観点からは、『文。』の「構成要素」と呼ぶこともできます

≪「文役」＝「構成要素」≫と考えてください

『文。』の「構成要素」とは、『文。』をつくる「必須の要素」ということです
また、『文。』中の役割（「文役」）を確定していくことを「構造把握」をいいます

「文役」

（ ＝

「構成要素」

）

「文役」とは、『文。』の「ルール」に従った、『文。』中の「役割」をあらわす総称で、本書では、『文。』を「構成」する「空の貨物車両」と例えてきました
「主役」「自動詞」「補役」「他動詞」「目的語」の5種類のみしかありません

「品詞」

「語句節」の性質に着目した分類の視点からの「総称」で、主に「名形自他+副」

「構成4品詞」

『文。』の「文役（構成要素）」には、「名詞」「形容詞」「自動詞」「他動詞」の4種しかねない

「初歩の段階」では、「英文」中の「品詞」と「文役」を丁寧に確定させていくのが、「英文読解」を上達させる「確実なルート」です

これを、「品詞分解（作業）」といいます。が、「構造把握」ともいうのです

「文役」は「主役」「自動詞」「補役」「他動詞」「目的役」で、『文。』の「組成」の視点から見ると「構成要素」であり、本書では、まとめて「主自補他目」「主自他目補」「主目補」等と略して表記したりします

それでは、「文役」と「品詞」の関係について、「英文」で見てみましょう

| ① | 主 部 | 述 部 | |
|----|---------|-----------|--|
| | 「何」が、 | 「どうする」。 | |
| 英文 | T a r o | r u n s . | |
| 文役 | 主 役 | 自動詞 | |
| 品詞 | 名 詞 | 自動詞 | |

| ②A | 主 部 | 述 部 | |
|----|---------|-------|-----------------|
| | 「何」が、 | だ(です) | 「何」 |
| 英文 | T a r o | i s | c a p t a i n . |
| 文役 | 主 役 | 自動詞 | 補 役 |
| 品詞 | 名 詞 | 自動詞 | 名 詞 |

| ②B | 主 部 | 述 部 | |
|----|---------|-------|-----------|
| | 「何」が、 | だ(です) | 「どんな」 |
| 英文 | T a r o | i s | k i n d . |
| 文役 | 主 役 | 自動詞 | 補 役 |
| 品詞 | 名 詞 | 自動詞 | 形容詞 |

| ③ | 主 部 | 述 部 | |
|----|---------|-----------|-------------|
| | 「何」が、 | 「どうする」。 | 「何」を、 |
| 英文 | T a r o | k i c k s | a b a l l . |
| 文役 | 主 役 | 他動詞 | 目的役 |
| 品詞 | 名 詞 | 他動詞 | 名 詞 |

『文。』の「イメージ」

『文。』という「舞台」の上で、「名詞」「形容詞」「自動詞」「他動詞」という「俳優」陣が、「プロデューサー（作文者）」に選ばれて、「主役」「自動詞」「他動詞」「補役」「目的役」という「配役」について、様々な現事象を演じて伝達しているのです
 第05講で学習しますが、舞台の「場面状況」「背景」が「副詞」なのです
 「場面状況」「背景」が「配役外」「構成要素外」なのはわかりますね

本講の習得内容のまとめです

【 『文。』 の解析・読解の視点 】

- ① 「語句節」が『文。』中でどんな役割（「文役」）をしているのか（「文役」の確定）
- ② 「文役」には、どんな「品詞」が据えられているのか（「品詞」の確定）

『文。』の「構造把握」には、①と②の往復思考が大切なのです（「品詞分解（作業）」）

「名詞補役」は深すぎる・・・

「名詞主役」を「名詞補役」で「言い換える」ことは、恐ろしいほど深いものです

「職業・地位・内容」のうち「内容」と分類されるものが、怖いのです

「名詞」につきましては、「第07講」以下で、追々触れていきますが、様々な「名詞」（第15講参照）で、「主題・主役」を「言い換える」のです

「名詞」で「名詞」を説明するのは至難の業なのです（「形容詞」で「説明」するのは困難さのレベルが違います）

この「言い換え」は、「現代文」の訓練で鍛えるしかないでしょう

次講では、「自動詞」と「他動詞」について、詳しくみていきましょう

ここで、英語長文読解の勉強の開始時期や前提について一言させていただきます

高校初級中級レベルの現代文や現代文の語彙力の完成もないのに、英語長文を読んでも「砂上の楼閣」を地で行くようなものですよね

ですから、①現代文の基礎的問題集と②現代文用語集とさらには③漢文の基礎的問題集をある程度完成させてから、はじめて英語長文に進むべきです

というのも、当然、日本語で読めないレベルのものを英語で読もうなんていのは、時間・労力の無駄ですからね

日本語力や現代文のレベルを上げてから、英語長文読解に入りましょう

それまでは大学受験対策レベルの英文法問題集をの繰り返しや大学受験単語集の暗記につとめるべきです

重要な点を繰り返します

1. 文系で漢文を受験に使わないとしても、たった1冊の漢文問題集をやるかやらないかで読解力や人間力の深みが違ってきますので、必ず早めに仕上げてください
2. 理系の方でも、国語力は人間力・論理力・思考力・英文読解力の基盤ですから、漢文も含めて極力早めにやってください